

# 「教育サービス面における社会貢献」評価報告書

(平成12年度着手 全学テーマ別評価)

東京芸術大学

平成14年3月

大学評価・学位授与機構



## 大学評価・学位授与機構が行う大学評価

### 大学評価・学位授与機構が行う大学評価について

#### 1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

#### 2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを段階的実施( 試行 )期間としており、今回報告する平成 12 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

全学テーマ別評価（「教育サービス面における社会貢献」）

分野別教育評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

分野別研究評価（「理学系」、「医学系（医学）」）

#### 3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等の設定した目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的な目的及び目標が設定されることを前提とした。

### 全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」について

#### 1 評価の対象

本テーマでは、大学等が行っている教育面での社会貢献活動のうち、正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、全機関的組織で行われている活動及び全機関的な方針の下に学部やその他の部局で行われている活動を対象とした。

対象機関は、設置者（文部科学省）から要請のあった、国立大学（政策研究大学院大学及び短期大学を除く 98 大学）及び大学共同利用機関（総合地球環境学研究所を除く 14 機関）とした。

各大学等における本テーマに関する活動の「とらえ方」、「目的及び目標」及び「具体的な取組の現状」については、「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」に掲げている。

#### 2 評価の内容・方法

評価は、大学等の現在の活動状況について、過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 3 項目の項目別評価によ

り実施した。

- 1) 目的及び目標を達成するための取組
- 2) 目的及び目標の達成状況
- 3) 改善のためのシステム

#### 3 評価のプロセス

大学等においては、機構の示す要項に基づき自己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に、専門委員会委員及び評価員による評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及びヒアリングの結果を踏まえて評価を行い、その結果を専門委員会でき取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった大学等について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

#### 4 本報告書の内容

「対象機関の現況」及び「教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標」は、当該大学等から提出された自己評価書から転載している。

「評価結果」は、評価項目ごとに、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

また、「貢献（達成又は機能）の状況（水準）」として、以下の 4 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いている。

- ・十分に貢献（達成又は機能）している。
- ・おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、当該大学等の設定した目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、総合的評価については、各評価項目を通じた事柄や全体を見たときに指摘できる事柄について評価を行うこととしていたが、この評価に該当する事柄が得られなかったため、総合的評価としての記述は行わないこととした。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった大学等について、その内容とそれへの対応を示している。

#### 5 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

## 対象機関の現況

### 【機関名及び所在地】

東京芸術大学  
(上野校地) 東京都台東区上野公園 12-8  
(取手校地) 茨城県取手市小文間 5000

### 【学部・研究科構成】

美術学部,大学院美術研究科(修士課程,博士後期課程)  
音楽学部,大学院音楽研究科(修士課程,博士後期課程)

### 【教育サービスを行っている附属施設】

大学美術館(取手館を含む),奏楽堂,附属図書館

### 【学生総数】

2,969人(附属音楽高等学校を除く)  
(平成13年5月1日現在)

### 【教員総数】

216人(附属音楽高等学校を除く)  
(平成13年5月1日現在)

### 【本学の特徴】

本学は、「広く芸術に関する知識を授けるとともに、深く専門芸術の技能、理論及び応用の教授並びに研究」(学則第1条)を行うことを目的としており、これらの目的を達成するための教育課程及び専門課程を編成し、深い教養と総合的な判断力を培いつつ、創造力と感性豊かな人間性とを兼ね備えた学生の育成に努めている。

開学以来、本学は我が国の芸術教育の中核として、古来からの伝統とその遺産を守りつつ、西欧の芸術思想及び技術を摂取、融合を図り、幾多の優れた芸術家を輩出してきた。彼ら芸術家は一方で優れた芸術成果を発表する傍ら中等から高等に亘る教育者として芸術文化の継承と発展に寄与してきた。総じて我が国の文化土壌の醸成、情操と創造性ある社会の形成と、国際社会における国際親善及び国際交流にも大きな貢献をしてきた。

これらの貢献は、一に優れた芸術家を教育、育成することで果たし得てきたが、今日における社会貢献は、多くの一般市民に対して、身近に芸術文化の教育、啓蒙の直接的関与の担い手として、大学が積極的にそうした役割を果たすべき時代であり、本学は教育研究と同様、社会貢献を重要な柱として位置づけ様々な取り組みを行っている。

本学は、教育研究の成果、すなわち教官、学生の創作や演奏等の研鑽の成果を、展覧会や演奏会等の方法により、社会に積極的に公開しており、これらの活動を芸術

文化普及の観点から社会貢献の一環としてとらえている。また、本学の教官は、教育者であると同時に我が国固有数の芸術家でもあって、その研究成果の発表が、学内外において継続的・積極的に行われていることは言うまでもないが、これらは本学の社会貢献活動であると同時に、我が国における芸術文化の普及活動でもある。

また、本学における芸術教育(人材養成機能)は、正規の課程に在籍する学生(いわゆる正規学生)を対象とするのが基本であるが、生涯学習への対応や多様な学習要望に応ずる観点から正規学生以外の対象にも振り向けられるべきものと考えている。すなわち、社会の幅広い層を対象とした芸術教育は、我が国唯一の国立芸術大学として積極的に取り組むべき使命であり課題である。

そして、これらの使命、取り組みが、ひいては本学の教育研究にもはね返ってきて、結局は学外・学内各々の芸術文化振興と教育研究のさらなる向上に資するものと確信している。

## 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

### 1. 教育サービス面における社会貢献に関する考え方

#### 【社会貢献活動全体の位置付け】

本学は、「広く芸術に関する知識を授けるとともに、深く専門芸術の技能、理論及び応用の教授並びに研究」（学則第1条）を行うことを目的として、創造力と感性豊かな人間性とを兼ね備えた学生の育成をするとともに、芸術文化の普及、発展に努めている。

文化振興マスタープラン（平成10年3月31日文化庁策定）は、「我が国が今後とも活力ある社会を維持し、世界に積極的に貢献していくためには、先導性や独創性を一層発揮する方向へ・・・とりわけ創造性が求められる科学技術と文化は、国民生活や社会を支えるものとして、その重要性は急速に高まっている。あらゆる人が、心豊かな質の高い生活を送るためには、精神的な満足感をもたらす文化的な要素が欠かせなく重要になってきている。」と述べている。

本学においても社会貢献活動については、その活動や教育を通じて多くの人々に芸術をより身近なものとして理解してもらい、芸術文化の普及、発展を図ることを意図しており、本学本来の教育研究活動と表裏一体の関係にあり重要な位置を占めている。

#### 【教育サービス面における社会貢献の考え方】

本学は、教育研究の成果、すなわち教官、学生の創作や演奏等の研鑽の成果を、展覧会や演奏会等の方法により、社会に積極的に公開しており、これらの活動を芸術文化普及の観点から社会貢献の一環としてとらえている。

また、本学における芸術教育（人材養成機能）は、正規の課程に在籍する学生（いわゆる正規学生）を対象とするのが基本であるが、社会の多様な要望に応ずる観点から現職の専門職等を対象とした芸術教育プログラムを編成する。

さらに、開かれた大学として大学の教育研究活動へのより深い理解を得、一般市民に単なる鑑賞の域を超えて芸術を深く理解する場と生涯学習の機会を提供するため、公開講座等のプログラムを編成する。

また、低年齢層の芸術への関心を喚起して理解を促し、将来の芸術文化基盤の質的向上、さらには専門的に芸術に従事する人材の発掘に寄与するため、学外における本学学生以外の児童生徒を含む一般人を対象とする指導・

教育活動に貢献する。

#### 【具体的な教育サービスの活動】

教育サービス活動については、様々な要望に応じたものや地域社会に働きかけたものなど多種多様であり、具体的には下記に掲げる活動を行っている。

##### 専門職を対象とする教育サービス

- ・ 研究生
- ・ 研究員・研修員
- ・ 受託生
- ・ 受託研修
- ・ フォーラム

##### 一般市民を対象とする教育サービス

- ・ 展覧会
- ・ 演奏会
- ・ 附属図書館利用
- ・ 公開講座
- ・ 科目等履修生
- ・ 修学旅行生等の見学受入

##### 大学等から地域社会へと働きかける教育サービス

- ・ 大学等地域開放特別事業
- ・ 地元台東区（上野校地所在地）との連携による芸術教育
- ・ 地元取手市（取手校地所在地）との連携による芸術教育
- ・ 全国市町村等との連携による芸術教育
- ・ 所蔵作品の館外貸出
- ・ 巡回展（本学所蔵作品）

### 2. 教育サービス面における社会貢献に関する目的及び目標

#### （1）目的

前項のとらえ方に述べたように、本学も文化振興マスタープランにあるような考え方に基づいて、従来から芸術文化の普及、発展に努めているところであり、下記に述べる目的をもって様々な活動を展開している。

新しい世紀を迎えて、人の《こころ》を見直しそれを豊かにすることがもっとも大切な社会になった。芸術はこの《こころ》という問題に直接関与するものである。本学の果たすべき社会貢献は一重にこの点に関わっていると認識している。責務重大であると言わざるを得ない。

芸術を通じて《こころ》を高めること

芸術教育を通じて芸術をより身近なものとして理解してもらふこと  
芸術文化を継承すること  
芸術文化を普及、発展させること  
教育サービスを行うことによって、教育研究の質的向上を図ること

すなわち本学は、上記5項目に集約される「目的」を持ち、「社会貢献のとらえ方」で述べた理念に基づいて種々の制度を創設・運用し、独自に、あるいは地域との連携協力の下で、様々な企画の立案・実施に当たっており、今後、それらの実施内容や事業を可能な限り拡充していくことが必要であると考えている。

## (2) 目標

目的を達成するため、下記のとおり具体的な目標を設定する。

### 1) 専門職を対象とする教育サービス(高度な芸術教育の提供)

美術学部及び音楽学部において、大学院修士課程修了レベルの者を研究生として受け入れ、高度な研究を実施する。

美術学部及び音楽学部において、研究員・研修員、受託生(委託生、科目等履修生)を受け入れ、高度職業人としての能力向上を支援する。

美術学部及び大学美術館において、職業人を受け入れ、集中研修を実施して大学院レベルの教育を効果的に提供する。

音楽学部において、フォーラムを実施し、現職教員の能力向上を支援する。

### 2) 一般市民を対象とする教育サービス(多くの一般市民が優れた芸術教育を身近に受ける機会の提供)

大学美術館において、本学独自の質の高い展覧会を企画し、一般市民が優れた芸術作品を身近に鑑賞する機会を提供する。

- ・本学が所蔵する芸術作品の展覧会の企画・開催
- ・内外の優れた芸術作品の展覧会の企画・開催
- ・本学教官の研究発表展及び学生の創作展を企画し、生まれたばかりの今日の芸術(現代美術)への理解と啓蒙普及の促進

奏楽堂において、本学独自の斬新で多様なプログラムと新しい発想に基づく意欲的な企画による演奏会を実施し、一般市民が身近に質の高い作品や演奏を鑑賞できる機会を提供する。

- ・民間の企画では採算等の理由により取り上げられる機会の少ない作品の紹介
- ・プログラム・ノート等の媒体を利用した演奏と研究の緊密な共同作業の成果の公表
- ・洋楽セクションと邦楽セクションを擁する本学音楽学部の特性を生かした東西の音楽の融合や協同の試み

- ・音楽学部と美術学部の共同作業による音楽と視覚・空間芸術との一体化の試み

附属図書館において、研究者等に対し、芸術専門情報の提供をし、高度な研究等の支援を図る。

美術学部及び音楽学部において、一般市民に平易で一般性のある実技教育を行い、生涯学習のひとつとして教養を深め、趣味の幅を広げる公開講座を提供する。

美術学部及び音楽学部において、一般市民を科目等履修生として受け入れ、芸術に関する教養を深める機会を提供する。

事務局において、修学旅行生等の見学希望者を受け入れ、積極的に大学の情報を提供する。

### 3) 大学等から地域社会へと働きかける教育サービス(地域社会に働きかけ豊かな市民生活の形成に寄与すること)

美術学部において、大学等地域開放特別事業として地域社会の中学生を対象とした体験学習を提供する。

美術学部及び音楽学部において、地元台東区と文化交流協定により、地域住民に対して美術教室や演奏会等を企画し、芸術体験や芸術教育の機会を提供する。

美術学部及び音楽学部において、地元取手市と文化交流協定により、地域住民に対して美術教室や音楽教室、展覧会や演奏会を企画、また特にアートプロジェクトを提案、地域住民と共に考え、創造あるいは鑑賞の機会を提供するとともに、豊かな市民生活の実現に向け協力する。

美術学部及び音楽学部において、全国市町村等からの要請に応じ、芸術講座への講師派遣や展覧会及び演奏会等を積極的に行い、地域住民に芸術体験や芸術教育の機会を提供する。

大学美術館において、本学所蔵芸術作品を他美術館等に貸し出し、地域の一般市民が優れた芸術作品をより身近に鑑賞できる機会を提供する。

大学美術館において、他美術館と連携し巡回展を企画し、全国の多くの一般市民に本学が所蔵する優れた芸術作品の鑑賞機会を提供する。

---

## 3. 教育サービス面における社会貢献に関する取組の現状

---

### (1) 専門職を対象とする教育サービス(高度な芸術教育の提供)

#### 1) 研究生

美術学部と音楽学部において、大学院修士修了以上又はこれと同等以上の者が、特定の研究テーマをもって1

年間指導教官の指導を受けながら研究するもので、書類選考により受け入れている。

#### 2) 研究員，研修員

美術学部と音楽学部において国立大学の教官を文部省内地研究員として、また、私立学校の教員を私学研修員として受け入れている。

#### 3) 受託生（委託生，科目等履修生）

外部機関から派遣された職業人を美術学部は委託生として、音楽学部は科目等履修生として受け入れ、職務に関連のある科目を受講させることにより、能力の向上を図る。

#### 4) 受託研修

文化庁が、平成9年度から公私立博物館・美術館の学芸担当職員を対象に、国立博物館・美術館における実務研修及び大学等の協力による集中研修を実施。本学では美術学部及び大学美術館の教官による1週間の集中講義を担当し研修に協力している。

#### 5) フォーラム

新学習指導要領の改訂に伴い、中学校及び高等学校の「音楽」の表現の教育内容に邦楽実技教育が入ったことを受けて、音楽学部では、平成12年に全国の小・中・高等学校の教師及び関係者に呼びかけ、邦楽に関する教育について、共に研究するため「学校邦楽教育フォーラム」を開催。

### （2）一般市民を対象とする教育サービス（多くの一般市民が優れた芸術教育を身近に受ける機会の提供）

#### 1) 大学美術館における展覧会

大学美術館において、年間計画に基づき本学が所蔵している芸術作品や美術学部の教育研究の成果として教官・学生が制作した作品を積極的に展示公開し、一般市民が身近に優れた芸術作品を鑑賞する機会を提供するとともに、本学の教育研究活動への理解と、芸術文化の普及発展に資するため展覧会を実施している。

#### 2) 奏楽堂における演奏会

奏楽堂において、年間計画に基づき本学独自の斬新で多様なプログラムと新しい発想による演奏会を企画し、一般市民に優れた芸術鑑賞の機会を提供するとともに、本学の教育研究活動への理解と、芸術文化の普及発展に資するため演奏会を実施している。

#### 3) 附属図書館利用

本学の附属図書館は芸術関係分野の資料が充実しており、他大学の学生や教官、他機関の研究者及び個人の研究者等に対して、申請書に基づき附属図書館の利用を認め、調査・研究の支援をしている。

#### 4) 公開講座

昭和58年から美術学部及び音楽学部において、本学がもっている専門的・総合的な芸術教育・研究機能を広く社会のために提供して、学習の道を開くことを目的として、実技講座を中心に実施している。

##### 1 講座の受講者数を小人数編成にし、きめ細かく指導

するとともに、実技授業に支障のない夏季休業期間に集中させて行っている。

#### 5) 科目等履修生

美術学部及び音楽学部において、一般市民が芸術に関する教養を深めることができるよう、科目等履修生を受け入れている。開設授業科目の中から特定科目を選択し1年間受講する。

#### 6) 修学旅行生等の見学受入

中学生や高校生等が、修学旅行などで体験学習するために、訪問希望があった場合、本学ではこれらの要望に積極的に応え、大学案内、体験学習等の支援をしている。

### （3）大学等から地域社会へと働きかける教育サービス（地域社会に働きかけ豊かな市民生活の形成に寄与すること）

#### 1) 大学等地域開放特別事業

美術学部において、平成12年度から大学等地域開放特別事業として取手校地で中学生を対象とした「はじめてでもできる体験フレスコ画実習」を開催。

#### 2) 地元台東区との連携による芸術教育

本学と台東区は、地域社会の芸術・文化の向上を図り双方の交流と連携を深めるため、昭和59年に芸術・文化懇談会を設置し、地元住民が芸術を身近に体験できる機会を積極的に提供している。主な取組は下記のとおり。

##### ・木曜コンサート

毎月1回旧奏楽堂において音楽学部学生及び大学院生によるコンサートを開催。

##### ・台東第九演奏会

台東区の市民合唱団と音楽学部オーケストラによる合同演奏会を昭和56年から毎年12月に浅草公会堂で開催。連続演奏20回記念の平成12年から本学奏楽堂で開催。

#### 3) 地元取手市との連携による芸術教育

本学と取手市は、取手市地域社会の芸術・文化の向上を図り双方の交流と連携を深めるため、平成4年に芸術・文化懇談会を設置し、地元住民が芸術を身近に体験したり鑑賞できる機会を積極的に提供している。主な取組は下記のとおり。

##### ・小・中学校において美術，音楽の指導

学部学生や大学院学生及び非常勤講師が小学校においては絵画指導，楽器演奏や歌唱指導，中学校においては美術部や吹奏楽部の指導等を実施。

##### ・演奏会

市民会館や公民館等で、市民を対象に室内楽演奏会やミニコンサートを実施。

##### ・創作展

美術学部取手校地専門教育棟において、教官、学生が制作した作品を展示公開し、市民の芸術鑑賞機会を提供。

##### ・ストリートアートステージ

取手駅東口周辺に12基の野外アート作品展示台「ストリートアートステージ」を設置し、美術学部

教官、学生の作品を展示。

・ 炎の祭（陶芸制作体験学習）

美術学部取手校地において、市民から応募のあった者が陶芸教官の指導により登り窯で陶芸作品を制作する体験学習を実施。

・ 壁画制作

大学院学生他の指導のもと、利根川鉄橋下船着場で、白山小学校の6年生が壁画制作。また、戸頭陸橋の橋脚に落書き防止と環境美化を目的として、戸頭小学校の2年生と5年生が共同で壁画制作。

・ 取手リ・サイクリングアートプロジェクト

特筆すべきイベントとして「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」がある。

このアートプロジェクトは、国際的な視野に立ち、地域に住む人々とともに、これからのアートと社会、人々とのコミュニケーションの在り方を問うため、平成11年度に美術学部先端芸術表現科と地元市民グループによる取手アートプロジェクト実行委員会が主催、取手市の支援を得て開催。

市内の放置自転車をリサイクル、カラーリングして設置し、それに乗って見て回れる野外アート展であり、自転車のカラーリング等は助手及び学生が行い、展示作品等は全国から公募した。また、期間中、シンポジウム、ワークショップ及びアーティストトーク等も実施。

4) 全国市町村等との連携による芸術教育

全国市町村等からの要請により各種講座の講師派遣、展示会や演奏会等を実施し、地域住民が身近に優れた芸術の体験や鑑賞をできる機会を提供する。

主なものは下記に掲げるとおりである。

・ 妙高高原夏の芸術学校

東京美術学校長であった岡倉天心の終焉の地である新潟県妙高高原町で、妙高高原町他が主催する夏の芸術学校が開催され、本学とゆかりの深い地でもあり講師として美術学部教官、非常勤講師及び学生が協力し、地域住民が身近に優れた芸術の体験をできる機会を提供している。

・ 山形県最上郡金山町「鉄の森」展

金山町は「街並み（景観）づくり100年運動」を推進中であり、特産の金山杉を使用した美しい景観形成のための「金山町地域住宅計画全国大会」が開催されるのを契機として、金山町と美術学部工芸科鍛金講座とのコラボレーションによる、町とアートの出会いをテーマに、金山杉と金属とを組み合わせた作品制作と展示を通して文化を考える「鉄の森」展を開催。

・ 伊沢修二先生記念音楽祭

東京音楽学校長であった伊沢修二生誕の地である長野県高遠町で、高遠町主催による記念音楽祭が開催され、本学とゆかりの深い地でもあり音楽学部学生オーケストラを派遣し演奏協力を積極的に行い、市民が身近に優れた芸術鑑賞をできる機会を提供している。

・ メサイア公演

朝日新聞厚生文化事業団が主催するチャリティーコンサート「メサイア公演」は、開始当初から連続50回演奏を目指して始められ、本学はその趣旨に賛同し音楽学部が全面的に協力しボランティア演奏を行っている。平成12年に連続50回の演奏会を達成。

・ その他の出張演奏

学外機関等からの出張演奏依頼に対して、本学の教育研究に支障がなく、かつ芸術文化の発展向上に資すると認められる場合は、積極的に出張演奏に協力している。

5) 所蔵作品の学外貸出

学外機関の美術館等から本学所蔵作品の貸出依頼に対しては、作品の保存状態や本学の教育研究に支障のない範囲内において、多くの一般市民が優れた芸術作品を身近に鑑賞することができるよう、また、芸術文化の普及発展に資するため、本学は積極的に協力している。

6) 巡回展（本学所蔵作品）

本学が所蔵している優れた芸術作品を、多くの人々に身近に鑑賞してもらう機会を提供し、かつ芸術文化の普及発展に資するため、計画的に巡回展を実施している。



## 評価結果

### 1. 目的及び目標を達成するための取組

東京芸術大学においては、「教育サービス面における社会貢献」に関する取組として、研究生の受入れ、研究員の受入れ、研修員の受入れ、受託生の受入れ、受託研修、フォーラム、大学美術館における展覧会、奏楽堂における演奏会、附属図書館の開放、公開講座、科目等履修生の受入れ、修学旅行生等の見学受入れ、大学等地域開放特別事業、全国市町村等との連携による芸術教育、所蔵品の学外貸出、巡回展などが行われている。

ここでは、これらの取組を「目的及び目標を達成するための取組」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成への貢献の程度を「貢献の状況（水準）」として示している。

#### 特に優れた点及び改善点等

全国の小・中・高等学校の教員及び教育委員会関係者を対象に、邦楽科を擁する音楽学部の特徴と蓄積を生かし、学校邦楽教育フォーラムを開催して、現職教員の能力向上を支援していることは、特色ある取組である。

大学美術館における展覧会は美術学部が中心となり、芸術大学としての特色を生かしている。我が国の近・現代美術史を形成する重要な所蔵品の展示企画、創作現場からの展示企画、研究教育の成果による展示企画等、従来の展覧会ではできなかったユニークな企画による展覧会が大学美術館の開館により可能となり、外部機関（新聞社、放送局）との共催により大規模かつ内容の充実した展覧会を実施しており、優れた取組となっている。

音楽学部の主要な演奏会は、平成 10 年度以降は、同年に完成した奏楽堂で開催されるようになり、平成 10 年度以降定期演奏会の回数及び入場者数が増えている。特に平成 12 年度からは従来の定期演奏会（大学オーケストラ、オペラ、学生オーケストラ、吹奏楽、室内楽、邦楽）のほかに、演奏芸術センターの企画になる、特色ある明確なテーマを抱えたスポット（例、芸大定期「音による絵」）または、シリーズのコンサート（例、「ショパン全曲演奏会」全 12 回）が多数開催されるようになっており、音楽学部の社会貢献の中心であると同時に研究教育の成果を披露する場ともなっており、優れた取組である。

公開講座は、一般市民の芸術に親しみ創作を享受する

機会として、実技講義を中心に 1 講座の受講者数を少人数編成にし、きめ細かい指導を図っており、特色ある取組である。また、本講座の修了生による親睦と創作のグループが結成され、今日まで数々の活動をしている例もあり、取組として成功していることを示している。

全国市町村や他組織との連携を行っており、地元台東区との連携による各種コンサートは、地域に多様な演奏を継続的に提供している。なかでも木曜コンサートは毎月 1 回開催しており、平成 13 年 3 月で第 143 回目となっている。台東区民合唱団と音楽学部オーケストラによる「台東第九」公演は、平成 12 年で 20 回目を迎え、地元根ざした地道でユニークな活動となっている。

音楽学部では、地元地域だけでなく全国的に連携の取組が展開されており、長年にわたってボランティア活動として取り組んできた各地の教育委員会、官公庁等からの依頼のいくつかはすでに伝統として定着している。それに伴って個々の企画に一貫した特色を持たせる工夫もなされている点は、優れた取組である。

「取手り・サイクリングアートプロジェクト」は、大学等から地域社会へ働きかける教育サービスとして、大学の特徴を生かしており、取手市の支援を得て市内の放置自転車をリサイクル、カラーリングして設置し、それに乗って見て回れる野外アート展である。競輪の街取手を逆手にとって放置自転車への問題提起を市民と手を携えながらアートとして展開し、また、取手市在住の芸術家や全国公募の芸術家までも巻き込んで市内の広範な地域に展開するユニークな地域文化振興事業となっている点は、大学の社会貢献の新しい方向を示すものとして意義深く特色ある取組である。

それぞれの教育サービス活動については、大学美術館運営委員会、音楽学部演奏委員会等で個々の取組内容を検討、企画、運営する体制が整備されているが、全学的な視野で検討、企画、運営する体制が整備されていない点は改善を要する。

#### 貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

---

## 2. 目的及び目標の達成状況

---

ここでは、「1. 目的及び目標を達成するための取組」の冒頭に掲げた取組の達成状況を評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、目的及び目標の達成状況の程度を「達成の状況（水準）」として示している。

### 特に優れた点及び改善点等

大学美術館を中心に開催している展覧会は、東京芸大と社会を結び開かれた窓としての役割を担ったもので社会貢献の中軸をなすものである。4万5千点の所蔵作品の中には、我が国の近・現代芸術史を形成する重要な作品が多数あり、質の高い作品の展示公開となっている。

また、大学美術館閉館以前の平成10年度に開催された展覧会は8回で観覧者は37,412人であり、大学美術館閉館後の開催回数と観覧者は、平成11年度7回（439,396人）、平成12年度7回（246,908人）で大学美術館閉館以前より観覧者が大幅に増えており、一般市民が優れた芸術作品を身近に鑑賞する機会を提供する取組として成果を上げている。

音楽学部では社会貢献の中核と位置づけられる多様な企画に基づく多くの演奏会が開催されている。これらの企画は、一般性のあるプログラムによる音楽芸術の普及活動として行われているだけでなく、芸大の音楽学部だけができる独自性のある先進的な演目の提供によって、多様な音楽文化の啓蒙活動の機能も果たしつつある。

また、演奏会は、音楽学部の社会貢献の中心であると同時に、教官・学生の教育研究成果を問う場としても重要な役割を担い、音楽学部の行為と社会の要請との双方向的な接点の機能を果たしている。

定期演奏会等の回数と入場者数は、平成8年度12回（9,993人）、平成9年度12回（9,069人）、平成10年度20回（18,105人）、平成11年度27回（13,782人）、平成12年度66回（31,505人）と平成10年度以降入場者は増えており、一般市民が身近に質の高い作品や演奏を鑑賞できる機会を提供する取組として成果を上げている。

上野校所在地である台東区との連携に関しては、木曜コンサートが毎月1回開催され、平成13年3月で第143回となり、奏楽堂デビューコンサート、「台東第九」等を積極的に行っている。取手校所在地である取手市との連携に関して、小中学校での美術・音楽の指導は、地元の熱心な要請に応じて年々指導する学校が増加し、実施種目も増加している。同一学校から継続して依頼があることから、満足度は高い。また、全国市町村等との連携による芸術教育は、芸術の多様なジャンルに渡って質の高いサービスを提供している。音楽学部においては長年

に渡ってボランティア活動として取り組んできた。各地の教育委員会等の依頼のいくつかは既に伝統として定着しており、地域社会に働きかけ豊かな市民生活の形成に寄与する取組として成果を上げている。

実技講座を中心に実施されている公開講座は、1講座の受講者数を少人数編成にし、きめ細かく指導できる体制となっている。例年同じテーマの講座が設定されており、年度を超えて継続受講者が多く、受講者の生涯学習への期待に沿ったものとなっている。一方、例年募集人数を大幅に下回る講座があることや、講座のテーマが限定され、受講者のニーズに沿っていない講座もあり、改善の余地もある。

### 達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

---

### 3. 改善のためのシステム

---

ここでは、当該大学の「教育サービス面における社会貢献」に関する改善に向けた取組を、「改善のためのシステム」として評価し、特記すべき点を「特に優れた点及び改善点等」として示し、システムの機能の程度を「機能の状況（水準）」として示している。

#### 特に優れた点及び改善点等

それぞれの教育サービス活動の主な企画・運営等は音楽学部演奏委員会等の各担当委員会が行い、教授会又は評議会の議を経て実施されている。また、学外有識者からなる運営諮問会議に本学の主要な活動の報告を行い、意見を聴取している。これらが、学部レベル、全学レベルで組織的に検討され、活動毎に委員会等の常設の検討組織が整備され、検討される仕組みになっているのは優れている。

大学美術館では独自の組織として、学外有識者からなる評議員会を設置し、幅広く外部の意見を聞く体制を整えている点は優れている。また、数年先の展覧会企画を立案し準備を進めるため、学長を委員長とする「特別展企画会議」を設置している。これらの活動は、全学レベルで組織的に検討され、活動毎に委員会等の常設の検討組織が整備され、検討されるようになっており、システム的に優れた取組である。

特色ある取組としての地元台東区と取手市との交流については、それぞれ芸術・文化懇談会を設置し事業を行っており、これらが、全学レベルで組織的に検討され、常設の検討組織が整備されている点は優れた取組である。

展覧会、演奏会等は大学側の芸術としての創作や意図するところに基づいて提供しており、必ずしも鑑賞者のニーズに沿ったサービスの提供とはならない面もあるが、教育サービスとして提供するという面では、鑑賞者のニーズや要望を基に企画検討することも必要であり、改善の余地もある。

各々の取組内容について評価・改善するシステムはあるが、教育サービス面における活動を活性化させるために、特色のある芸大独自の活動を社会貢献の観点から企画・検討及び改善するためのシステムの整備がされておらず、改善の余地がある。

#### 機能の状況（水準）

改善のためのシステムがおおむね機能しているが、改善の余地もある。

## 評価結果の概要

### 1. 目的及び目標を達成するための取組

#### 特に優れた点及び改善点等

学校邦楽教育フォーラムで現職教員の能力向上を支援していることなどは、特色ある取組である。

大学美術館における展覧会は、芸術大学としての特色を生かし、ユニークな企画や大規模かつ内容の充実した展覧会を実施している点で、優れた取組である。

音楽学部の主要な演奏会は、音楽学部の社会貢献の中心であると同時に、研究教育の成果を披露する場としても、優れた取組である。

公開講座で、実技講義を中心に1講座の受講者数を少人数編成にし、きめ細かい指導を図っている点は、特色ある取組となっている。

地元台東区と連携した各種コンサートは、地元根ざした地道でユニークな活動であり、また、音楽学部では、全国的にも取組が展開され、各地からの依頼は伝統として定着しており、優れた取組である。

「取手リ・サイクリングアートプロジェクト」は、大学等から地域社会へ働きかける教育サービスとして、大学の特徴を生かした、ユニークな地域文化振興事業となっており、意義深く特色ある取組である。

各教育サービス活動は、全学的な視野で検討、企画、運営する体制が整備されていない点で、改善を要する。

#### 貢献の状況（水準）

取組は目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

### 2. 目的及び目標の達成状況

#### 特に優れた点及び改善点等

展覧会は、質の高い作品の展示公開で、観覧者が大幅に増えており、一般市民が優れた芸術作品を身近に鑑賞する機会を提供する取組として成果を上げている。

多くの演奏会は、普及活動のみでなく、先進的な演目の提供により、多様な音楽文化の啓蒙活動の機能を果たしている。また、定期演奏会の入場者数は増加しており、

一般市民が身近に質の高い演奏を鑑賞できる機会を提供する取組として成果を上げている。

小中学校での美術・音楽の指導する学校が年々増加している。全国市町村等との連携による芸術教育は、伝統として定着しており、地域社会に働きかけ豊かな市民生活の形成に寄与する取組として成果を上げている。

実技講座としての公開講座は、受講者の生涯学習への期待に沿ったものとなっているが、一方、募集人数を大幅に下回る講座があり、改善の余地もある。

#### 達成の状況（水準）

目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

### 3. 改善のためのシステム

#### 特に優れた点及び改善点等

各教育サービス活動の主な企画・運営等は、学部レベル、全学レベルで組織的に検討され、活動毎に委員会等の常設の検討組織が整備されており優れた取組である。

大学美術館では、学外有識者からなる評議員会で幅広く外部の意見を聞く体制を整え、また、活動毎に委員会等の常設の検討組織が整備されており優れている。

地元台東区と取手市との交流では、芸術・文化懇談会を設置し、全学レベルで常設の検討組織が整備されている点で、優れた取組である。

展覧会、演奏会等は、教育サービスとして提供するという面では、鑑賞者のニーズや要望を基に企画検討することも必要であり、改善の余地もある。

各々の取組内容について評価改善するシステムはあるが、社会貢献の観点から企画・検討及び改善するためのシステムの整備がされておらず、改善の余地がある。

#### 機能の状況（水準）

改善のためのシステムがおおむね機能しているが、改善の余地もある。